

プロパン需要前年比7.9%の大幅減  
記録的高気温が減らした  
～1月LPガス需給実績（5日集計）～

日本LPガス協会がこのほどとりまとめた「LPガス需給統計」（5日集計）によると、1月のLPガス需要（元売出荷ベース）は前年同月比6.4%減の1,232千トンとなった。プロパン需要は7.9%減と激減した。ブタンは1.9%増と化学原料用の輸入船直納需要に助けられてプラスとなったが、一般用は落ち込んだ。

これに対して供給は、輸入が前年同月比0.7%増の1,045千トン。1月としては2013年の1,116千トン以来の高水準となった。しかし、国内生産は低調で石油精製分、石油化学分合計170千トンにとどまった。この結果、供給計は1,215千トンとなった。

この需給の結果、1月末の一次基地在庫は月間17千トン減の1,544千トンとなった。前年同月末比では102.0%。うちランニング在庫は447千トンで同115.8%の高水準。

**1. <生産>** 1月の国内LPガス生産量は、石油精製分が前月比10千トン増、前年同月比28.2%減の135千トン、石油化学分が前月比横ばい、前年同月比12.5%減の35千トンとなった。

1月の原油処理量（精製業者分）は前月比2.1%減、前年同月比4.9%減の15,272千バレルだった。石油需要の需要低迷を反映して減少が続いた。燃料油計の需要は前年同月比9.8%減と大幅。プラスとなったのはジェット燃料油だけにとどまった。原油処理量の減少により製油所のLPガス生産量（製油所自家消費を除き市場出荷されたもの）が上記135千トン。

1月の石油化学のエチレン生産は519千トン、前月比8.1%減、前年同月比10.6%減となった。1月のエチレンプラントの定修はゼロ。前月、前年同月とも定修はゼロだったが、プラント稼働率は91.1%と前月の95.5%、前年同月の98.1%を大きく下回った。このため併産LPガスはほぼ横ばい・減少となった。

**2. <輸入>** 1月の輸入は1,045千トンで前月比117千トン減、前年同月比0.7%の増加。1月輸入量としては最近では高水準となった。米国からの極東入着カーゴが潤沢だったことを反映した。プロパンの輸入は前年同月比0.7%のマイナスだが、ブタンは7.8%増となった。ここ4カ月のブタン需要の伸びに対応したものだ。パナマ運河での船の輻輳やメキシコ湾の濃霧もあったが、数日で収束したことも輸入増につながった。

1月の国別輸入状況は、米国776千トン、カナダ48千トン、サウジアラビア43千トン、カタール34千トン、バーレーン25千トン、アブダビ24千トン、クウェート21千トン、オーストラリア74千トン。北米からの輸入比率は78.9%（米国74.3%）。なおプロパンに限ると866千トン輸入のうち米国が719千トンで83.0%となっている。日本勢のターム契約による中東からの輸入＝船積みはもっと多いが、今や米国のプロパン輸出は年間3,400万トン超ペースとなっており、アジア・極東地域には米国カーゴがどんどん流入。中国の米国産玉の関税率は31%と高額であることから、勢いトレーディングによる日本の米国産玉の輸入が増加して高比率となる。中東産カーゴは中国やインド、インドネシアなどに向かう。

3. <総需要と一般用需要>1月のLPガス総需要は、プロパンが前年同月比7.9%減の1,019千ト、ブタンが同1.9%増の213千ト、合計で同6.4%減の1,232千トとなった。プロパンは2カ月続けての前年比マイナス。ブタンは5カ月連続のプラスとなった。一般用需要に限ると、プロパンが7.9%減の1,019千ト、ブタンも2.5%減の192千ト、合計で7.1%減の1,211千ト。

1月の気温は、北日本が平年比1.7℃高、東日本は同2.7℃高、西日本が同2.8℃高。「全国的に期間を通して寒気の南下が弱く、上旬後半と下旬には低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んで顕著に高くなった」（気象庁）。1月としては現行統計につながる1946年以降で1位の高温となった。これが主として家庭用実需の低迷につながった。ちなみに、1月の灯油需要は前年同月比19.5%減だった。原油が急落し、2月CIPが1月比大幅安となることが明確だったことで1月LPガス国内市場では逆仮需が発生した。これも需要の縮減につながった。

4. <輸入船直納需要> 鉄鋼用と電力用の受入れは引き続きゼロだったが、化学原料用はブタン受入れが続き21千ト（昨年1月はブタン12千ト）。輸入CIF価格はLNGに比べてLPGが安値となっているものの、LNGの供給が旺盛で米国輸出価格も下落していることや暖冬による電力需要低迷から、電力用のLPガス需要は期待薄が続く。

5. <在庫> 以上のような需給の結果、1月末の一次基地在庫は12月末比17千ト減の1,544千トとなった。昨年1月末比では102.0%。うちランニング在庫は447千トで12月末比2千ト減、前年同月末比115.8%の高水準。1月末法定備蓄量は1,097千ト。昨年2月から民間備蓄日数が50日分から40日分に軽減されている。

1月のLPガス需給実績は次のとおり（単位・千ト、カッコ内は前年比％）。

	プロパン	ブタン	合計
月初在庫	1,037	524	1,561
	( 98.2)	( 103.1)	( 99.8)
ランニング分	279	170	449
	( 99.6)	( 108.3)	( 102.7)
法定備蓄	758	354	1,112
<供給>			
石油精製分生産	94	41	135
	( 73.4)	( 68.3)	( 71.8)
石油化学分生産	17	18	35
	( 73.9)	( 105.9)	( 87.5)
輸入	866	179	1,045
	( 99.3)	( 107.8)	( 100.7)
供給計	977	238	1,215
	( 95.5)	( 97.9)	( 96.0)
<出荷>			
一般用	1,019	192	1,211
	( 92.1)	( 97.5)	( 92.9)
鉄鋼用	0	0	0
	( -- )	( -- )	( -- )
化学原料用	0	21	21
	( -- )	( 175.0)	( 175.0)
電力用	0	0	0
	( -- )	( -- )	( -- )
輸入船直納計	0	21	21
	( -- )	( 175.0)	( 175.0)
出荷計	1,019	213	1,232
	( 92.1)	( 101.9)	( 93.6)
<在庫>			
月末在庫	995	549	1,544
	( 102.4)	( 101.3)	( 102.0)
ランニング分	268	179	447
	( 116.0)	( 115.5)	( 115.8)
法定備蓄	727	370	1,097

（注）在庫は一次基地在庫